資料２－２

千葉市基本計画（原案）総論第４章～第５章に対する委員からのご意見
（市の取組みに対する質問や字句の修正などに関するご意見）

No.	章	項	目	頁	該当箇所	文章	意見及び対案	意見の理由	委員
1	第4章	2		41	1行目	「みんなでめざす未来の千葉市」の実現に向け～	p40にてみんなでめざすべき未来の千葉市を定義しているので、「みんなが輝く　都市と自然が織りなす・ちばし」ではないか。		中島委員
2	第4章	2	3	42		■市民の懐の深さとオリンピック・パラリンピックのレガシーを活かした共生社会づくりの推進	各国の姉妹都市との交流について、今後、推進するところはないのか。	東京2020オリンピック、パラリンピックの無観客開催や各国選手との交流中止により、レガシーと言えるほどのものが千葉市に残せているのか疑問。 「世界とつながる」との目標達成のためには、他の施策も必要ではないか。	中島委員
3	第4章	2	3	42	4ポツ目	・そのため、わたしたちがこれまでの歴史の中で培ってきた市民の「懐の深さ」と、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の競技会場都市としての経験を活かし、誰もがいきいきと活躍し、社会に活力をもたらすとともに、国内外からも選ばれる、多様性を活かしたインクルーシブなまちを目指します。	上記同様、市民が経験したものは何か。 また、その経験により、なぜ、誰もがいきいきと活躍できるようになるのか。		中島委員
4	第4章	4	2	43	5ポツ目	・また、房総の大自然や山の幸・海の幸など、多彩な魅力を活かすとともに、テレワークやワーケーション など多様な働き方へのニーズを踏まえた、東京圏にあって独立した性格をもつちば共創都市圏 ならではの新たなライフスタイルを提案するなど、地域特性を活かした広域連携を推進し、「ポストコロナ」における圏域の価値向上を目指します。	以下のとおり修正する。 「・また、地域特性を活かした広域連携を推進するため、房総の大自然や山の幸・海の幸など多彩な魅力を活かすとともに、テレワークやワーケーションなど多様な働き方へのニーズを踏まえた、東京圏にあって独立した性格をもつちば共創都市圏ならではの新たなライフスタイルを提案するなど、「ポストコロナ」における圏域の価値向上を目指します。」	文章の冒頭で「地域特性を活かした広域連携を推進するため」と述べたほうが、広域連携に関する内容であることが伝わりやすいと考えたため。	渡邉委員
5	第4章	3	2	46		『下総台地の緑風、東京湾の浜辺、人々が行き交う“ちば”に住まう』	標語が多くないか。		中島委員
6	第4章	4		50	全体		目指すべき区の姿について、構成を①目指すべき区の姿②主な特徴とすることでより理解しやすくなると感じる。	目指すべき区の姿が先頭に来ることで、初めに各区の特徴の概要を把握できるため、具体的なイメージが湧きやすいと感じた。	渡邉委員
7	第4章	4	1	53	①主な特徴 5ポツ目	また、千葉駅北側に位置し、本市を代表する公園のひとつである千葉公園においては～さらなる魅力向上や周辺地域の活性化を図るための再整備が進められています。	以下の文章を文末に追加する。 「蓮池には、市の花である「オオガハス」が育成されています。」	市の花でもあり、世界最古のハスである「オオガハス」について触れてはどうか。	仙波委員
8	第4章	4	5	60	③実現に向けた取組みの方向性 2ポツ目	・自然に近くゆとりある空間のポテンシャルを活かし、農業や産業の振興を図るとともに、感染症等のリスクにも対応した、自然も仕事もそばにある、心豊かに暮らせる新たな職住近接のライフスタイルが実現できる環境を創ります。	大いに期待するが、感染症リスクに対応したリモートワーク拠点の整備などの観点も必要ではないか。		中島委員

千葉市基本計画（原案）総論第４章～第５章に対する委員からのご意見
（市の取組みに対する質問や字句の修正などに関するご意見）

No.	章	項	目	頁	該当箇所	文章	意見及び対案	意見の理由	委員
9	第4章	5		64	4ポツ目	・また、多様な主体が連携し、社会課題の解決に挑戦できる環境を整備するとともに、調整役としての役割を行政が担うほか、市民の目線に立ち、地域活動等に取り組む職員を育成します。	多様な主体との連携を説明する部分で、産学官連携について言及してはどうか。	千葉市は市内の各大学や企業と包括的な連携協定を結んでいることから、多様な主体についてより具体的な内容を明記してもよいのではないかと感じた。	渡邉委員
10	第4章	5		64	3ポツ目	・そのため、既存の公共私の役割分担を不断に見直しながら、多様な地域の担い手の相互連携を強化・促進し、みんなでまちづくりを進めていきます。	相互連携のためには、市内をはじめ、県内、国内、海外の知見を広く集め、適用・調整する横断的組織が必要と考える。		中島委員
11	第4章	5		64	4ポツ目	・また、多様な主体が連携し、社会課題の解決に挑戦できる環境を整備するとともに、調整役としての役割を行政が担うほか、市民の目線に立ち、地域活動等に取り組む職員を育成します。	今までも職員の育成に取り組んでいると思うが、市民の立場からすると異動が多いように感じる。		中島委員
12	第5章	1		65	5パラ目	さらに、施設の管理運営の効率化や計画的保全による維持管理コストの縮減、利用状況を考慮した施設総量の縮減、更新時における施設規模の適正化や集約化・複合化の検討など、民間活用やまちづくりの視点を含む経営的な視点に立った公共施設の適正管理を推進します。	PPPの活用について、予算や運営の制限により、独自の運営ができず、単なる行政の下請けとなっているとの話を聞く。 PPPのパートナーシップという言葉を今一度考えていただき、特色ある公共施設を望む。		中島委員